

奨学生 OB からのメッセージ

私が企業研究者を5年間経験して感じたことは、専門外の分野に関しても、食わず嫌いをせずに学ぶ・考えることが大切ということです。企業における製品化プロセスでは、様々な分野が密接に絡みあっています（触媒化学、プロセス工学、計装…）。そのため、自身の専門分野における事象が、異分野に与える影響について、常に意識することが必要です。博士取得者には、専門性は当然のこと、異分野において重要な情報・観点を迅速に見極める能力（適応力）が求められます。

博士課程においては、まずご自身の専門性を徹底的に極めてください。その上で、例えば普段のディスカッションにおいて、異分野から自分の研究がどのように見えているのか意識したり、或いは他者の研究を自分事として考えてみてください。互いの観pointの違いに気付けた時、研究が少し違った見え方になると思います。

大学院を修了して4年の月日が経ちました。将来への不安を抱えながら、修了という期限に向けて常に死に物狂いだっ学生時代と比較すると、多少守りに入った日々を過ごしてしまい、反省することが多いです。奨学金制度のお蔭で今の自分があることは社会人になった今も忘れることはなく、支援いただいた企業様、事務局様に恥ずかしくない生き方をせねばと、いつも心のどこかで意識しています。今自分がいる場所は、本当に自分が望んで選んだ場所だろうか、常にそうした問いかけをし続けてしまうのは、研究生生活で染み付いてしまった習慣かもしれません。学生の皆様も今ご自身の進路に大いに悩まれていると思いますが、社会人も同じ悩みを抱えているということをお伝えたいです。皆正解が分からない中で、その時々で最良と思える選択肢を選んで生きています。自分だけじゃないって分かれば、少し心強くなりませんか？安心して存分に悩んでください。

日本の産業界にて働く前に、研究能力のみならず語学力や文化の違いによる適応力の確認・力試しとして現在海外にてポストドクターとして働いています。渡航してすぐにパンデミックとなり通常よりも非常に困難な状況下に置かれていましたが、現在なんとか研究を行えています。海外での研究生生活の中で博士号は必須であると、発言やデータを信頼してもらえることから実感しております。日本の博士課程はレベルが高く、特に深い専門性と圧倒的な実験量に基づく確からしさと熱心な姿勢は一線を画しています。ですが自信を持って意見を言うこと、母国語でなくとも物怖じせずに話し、周りの協力を得ることが大事だと痛感しました。こちらの研究者は皆英語を話しますが、皆母国語訛りがあるのに自信に満ちており、それだけで日本人研究者は損をしていると思います。このような稀有な経験や成長は博士課程に進学しなければ得られなかったため、本プログラムによる支援には心より感謝申し上げます。

博士課程在学時は本プログラムにご支援いただいたおかげで金銭面などで余計な心配をせず全力で研究に打ち込むことができ、深く感謝しております。私自身はじめは博士課程への進学には不安がつきまっていたのですが、実際に博士課程に進学し、専門分野に向き合い続けることで専門知識をより深く理解したことに加えて、早い段階で自ら研究テーマを立案して研究を展開させていったという経験は研究者として生きていく上で大きな自信になりました。博士課程進学に興味があっても不安が大きくなかなか決断できない人も多くいると思います。もちろん楽しい事ばかりでなく辛いことも多くありますが、課題に粘り強く向き合い続けて乗り越えた経験が現在も研究に取り組み続ける基礎になっているように思います。今後、博士課程で研究能力を磨き、より主体的に研究に携わることのできる研究者が増えることを祈っています。

奨学生 OB からのメッセージ

博士課程だった当時、奨学金をいただけたことで金銭的な心配をすることなく研究に集中することができました。この場を借りてまず感謝を申し上げたいと思います。社会人になった今、現役の学生に伝えたいことが2つあります。社会情勢はますます不透明感が増しており、私達は答えのないジレンマを抱えた難問に、次々と対処・適応していくことが求められています。どうかみなさんの才能や頑張りを、自分のためや目先の利益に囚われるのではなく、広く社会のために向けてもらいたいと思います。ただそう言うものの、自身の力が不足しては、その思いを封じ込めて我慢せざるを得ない局面に早々とぶつかってしまいます。そこで理想を諦めて目をつむってしまうことがないためにも、どうか押しつぶされることがないくらいの力を身につけ、周りを圧倒できる自信を持ってもらいたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

化学人材育成プログラムより様々なご支援をいただき、深く感謝しております。学業に専念できるよう奨学金を頂いただけでなく、企業の方々の中で自分の研究内容を発表する機会まで頂きました。企業の視点での議論は普通の学会などでの議論と異なり、自身の研究を見直す大変貴重な経験となりました。また、発表時に参加されていた方々の研究に対する熱い姿勢、会社の雰囲気に触れることができ、私もこの会社で働きたいと思いました。そして、卒業後は本プログラムのご縁で、自分の研究を発表した会社に入社することができました。今後は、博士課程で得た知識や技術に磨きをかけ、社会の役に立つ技術や製品を生み出すべく、日々の研究開発に取り組んで参りたいと思います。

化学人材育成プログラムのご支援により、生活面の心配を一切することなく3年間研究に打ち込むことができました。今後研究者として生きていくことを見据えると、これは極めて貴重かつ恵まれた経験であったと思います。ここで培った基礎力や研究に対する姿勢を活かして日本の化学産業の発展に寄与していきたいと考えております。

博士課程1年の1年間、化学人材育成プログラムのお世話になりました。博士課程修了後、米国東海岸においてポスドクとして研究をしております。アメリカに滞在していると、アカデミア・企業・政府機関いずれにおいても博士人材の重要性を実感する場面が大変多いです。また、化学という専門性、バックグラウンドを共通の価値観として、協業する場面も今後増えていくのではないかと思います。本プログラムにより支援いただいた私を含めた博士が、日本の次の時代を牽引していけるよう、頑張っていこうと思います。

ご支援をいただきました、日本化学工業協会ならびに化学人材育成プログラム協議会のみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。

在学時は本プログラムに大変お世話になりました。

多大なご支援に支えられ研究に専念することができ、博士取得後の現在も研究者として日々充実した研究生を送っています。

学生の皆さん、本プログラムは経済面だけでなく人材交流の面でも得難い貴重な経験ができると思います。ぜひ本プログラムを活用して大きく成長してください。